

武庫川女子大 × 洋菓子店「ベルン」

鳴尾いちごをもう一度

再興活動を30秒CMに

かつて西宮市鳴尾地区で盛んに栽培された「鳴尾いちご」。その再興に取り組む武庫川女子大と洋菓子店「ベルン」(ともに同市)の活動を紹介するCMを、同大の学生たちが制作した。畑の風景や、イチ

ゴを使ったクッキーなどを約30秒で紹介。5日に甲子園球場であるプロ野球阪神―中日戦で、午後6時の試合開始前に、球場のオーロラビジョンで披露される。(伊丹昭史)

鳴尾いちごは明治後期、昭和初期が最盛期だったが、宅地化などで衰退した。再興は同大生らが2008年から始め、大学施設の屋上などで栽培。2年前から協力するベルンが今年はいちごのパウダーを練り込むなどしたクッキーを作り、来年4月以降に販売予定という。

CM制作は同大などの依頼で、情報メディア学科の丸山健夫教授のゼミに所属する3年生14人が、企画、撮影、編集と全てこなし

5日、甲子園球場で披露



ケールテレビの番組に携わった経験はあるものの、CMは初。最盛期の昔と、再興に取り組む今を、30秒間でどうつなげるか悩んだと副ゼミ長の山下依純さん(20)は振り返る。CMでは、冒頭に昔の写真は「冒頭に昔の写れば」と話す。CMはベルンのホームページでも紹介される予定。

言葉を入れて、現代へと場面転換。再興に取り組む教育学科の学生らと、ベルンの代表取締役・倉本洋一さん(46)がイチゴとクッキーを明るくPRする。

①CMを作った武庫川女子大の3年生たち ②再興を目指す「鳴尾いちご」をアピールするCMの一場面。武庫川女子大の施設屋上で栽培される「いちご」も西宮市池開町